

平成30年度

学校教育自己診断アンケート結果報告

平成31年5月

宣真高等学校



学校教育自己診断

「平成 30 年度 学校評価アンケート」結果のまとめ

平成 31 年 5 月 宣真高等学校

はじめに

学校は地域社会からの期待を正しく受け止めて、それに応えるため保護者・生徒・地域と一体となって教育活動を進めていくとともに、「開かれた学校作り」「信頼される学校作り」を確立することが重要になっております。そのために学校の教育活動全般に関する情報を、保護者や地域に積極的に発信し、説明責任を果たすことが求められています。

宣真高校においても、教育活動の更なる充実発展を図るために「学校教育自己診断」を実施しております。これは本校の運営上・教育上のさまざまな面について、教職員が自己診断を行うと同時に、生徒と保護者の皆様にも診断アンケートに協力していただき、教育の送り手と受け手の双方の評価を点検・分析するものです。これは学校運営や指導方法上の課題を浮かび上がらせるための欠かせない基盤行程であり、ここから改善改革の最重要ポイントを策定して、今後の教育活動の方針に反映させるつもりでおります。

アンケートにご協力いただいた皆様に御礼申し上げますとともに、これからの宣真高校の充実発展のために、忌憚のないご意見ご助言を賜りますよう、お願い申し上げます。

実施状況

	1 生徒対象	2 保護者対象	3 教職員対象
実施日	平成 31 年 3 月 1 日	平成 31 年 3 月 1 日	平成 31 年 3 月 1 日
回収期限	平成 31 年 3 月 13 日	平成 31 年 3 月 13 日	平成 31 年 3 月 13 日
回答者数	528 人(70.3%)	502 人(66.8%)	26 人(54.1%)

集計結果と自己評価の見方

回答は、設問に対する A B C D の四択式になっています。

設問の内容がよく当てはまる場合は A、やや当てはまる場合は B、あまり当てはまらない場合は C、まったく当てはまらない場合は D をそれぞれ選んでいただいています。

次ページからの集計結果一覧で、設問ごとに A B C D 選択の実数と割合(%)を表示していますが、大きく把握するために『当てはまる=肯定的評価=A+B の%』、『当てはまらない=否定的評価=C+D の%』も併せて表示しています。小数点 2 位以下の四捨五入によって必ずしも A+B と C+D の合計が 100 とはならない項目もあることをご了承ください。

次に設問の観点ごとにブロック分けをし、各ブロック内で特に注目すべき項目を取り上げて、その背景や理由について分析したものと、取り組むべき重点目標を記しています。また記入していただいたご意見は、順不同ですべて並べております。

評価結果から 一分析と目標一

A=よく当てはまる B=やや当てはまる C=あまり当てはまらない D=まったく当てはまらない

A+B=当てはまる C+D=当てはまらない

①学校運営・特色づくり

生徒	1	宣真高校には、他の学校にはない特色がある。	A+B	92%
保護者	2	宣真高校は、教育理念・方針をわかりやすく伝えている。	A+B	85%
教職員	9	生徒が、各コースに設定された授業・行事に満足しているかどうかを調べて、反映させるよう努力している。	A+B	77%

評価結果と分析

I 分析

生徒1の肯定的評価A+Bの92%はかなり高い認識度と思える。しかしその数字がイコール満足度かというのと、他の項目の肯定的評価がまちまちであるように、必ずしも他校と差別化された特色に十分な満足を享受しているとは言えない点を銘記したい。保護者2の設問に対する85%は前回と同じ値であり、学校の各種取り組みの狙いなどは一定の発信力を保持していると考えられる。教職員9の設問については、選択講座やコース行事を生徒がどうとらえているかのPDCAのあり方と言えるが、教職員自身の肯定的評価は前回より5ポイント上がった数値であった。微少ではあるが意識的に改善していこうという意志が見られる。

II 重点目標

本校の行事・特色や取り組みについては、ホームページやライン発信をかなりの頻度で更新して逐次発表を行うようにしている。そういった詳細で迅速な情報提供が望まれる時代である以上、今後もより丁寧かつ適切な手段を活用して、本校の現時性と未来の方向性を周知していく。その一方で、具体的な授業内容の見直しや課題を探り当てて、授業や行事がマンネリ化する危険をいかに防いで、生徒が興味を持って能動的に参加できる内容にするかに心を砕く。そのため外部の研修会やガイダンスに、機会を見つけて積極的に参加して、知見に磨きをかけていきたい。

②教育相談

保護者	3	宣真高校は、家庭への連絡や意思疎通をしっかりとおこなっている。	A+B	83%
-----	---	---------------------------------	-----	-----

評価結果と分析

I 分析

不登校や遅刻、長期欠席、事故、病気等についての家庭との連絡の重要度がいっそう増している。それ以上にカウンセリング室生や成績不振者についての、家庭への現状報告や見直しについての情報共有の必要性も高まっている。ただ、なかなか連絡がつかない家庭もあるので意思疎通の方法に工夫が必要と思われる。

II 重点目標

生徒のさまざまな学校生活での事象・変化については、迅速かつ正確に、主観と客観を区別して、教職員側が心して家庭に連絡しないと予想外の齟齬や誤解につながる例がある。特に成績にかかわること、進路にかかわることは極めて重要なので、誠実な姿勢で家庭と向き合い、生徒の現況、将来について、過不足なく適切に情報を送るよう心がける。

③学力指導

教職員	4	特に理解の進んでいる生徒にも不満がないような授業展開を講じている。	A+B	69%
	6	チャイムと同時に入室、生徒の授業態勢の確立、授業中の適切な注意指導等に意を砕いている。	A+B	92%

評価結果と分析

I 分析

設問4の数値は前回より10ポイント低下している。理解の遅れている生徒への意識の方が勝っていたということか。授業の理解度の深淺についてクラス内のさまざまなレベルの生徒に目を向ける必要がある。不満が出ないようにバランス感覚とチェックする姿勢が肝要である。設問6については前回より1ポイント上昇しており、授業という枠をまずきっちりと整えようという意識がうかがえる。

II 重点目標

習熟度の遅れがちな生徒と理解の早い生徒とを、どう同じ時間内に満足させるか、という課題については、理解できていない生徒たちへのアプローチに偏りがちな傾向があるのは事実であり、その視点はなくてはならない要である。その一方で進度を進めたい生徒へは「先取り学習プリント」を配布するなどの準備を、單元ごとに用意するなどの工夫をする。伸びる生徒にも伸ばす機会や手段を与えるのも、また一方の要である。全方位に目配りをする態勢を身につけるようにしたい。また、引き続き教員には、早めの職員室を出発し、チャイム入室を守るように指示していく。授業中の私語への注意指導についても、何度注意しても改善の見られない生徒がいた場合、学年で厳重に指導するなど、授業担当者との連絡密度を上げていく。

④学校生活

生徒	2	生徒同士や、先生と生徒の仲はよいほうである。	A+B	87%
	3	悩みごとの相談について、先生の相談しやすい雰囲気がある。	A+B	70%
	4	先生は、生徒のプライバシーを守ってくれる。	A+B	79%
保護者	4	宣真高校では、子どものプライバシーはよく守られている。	A+B	87%
	5	子どもは、心身の悩みについて気軽に先生に相談できる。	A+B	70%

評価結果と分析

I 分析

生徒設問2より、生徒の大多数は、友人関係及び教員との関わり合いは良好であると見受けられる。また、生徒設問3と保護者設問5より、大半の生徒は教員へ自分自身の心の内を相談できる環境下にいる。また、そのような関係であることを保護者に話している。しかし、裏返せば、全体の1/4ほどの生徒が、自分のことを話しにくいまたはサインを出しにくいと感じている状況にある。「親しみやすい」「声をかけやすい」ことが「自分自身の心の内を相談する」に比例してはならず、家庭においても「先生に相談してみたら…」というアドバイスを出しにくいとも考えられる。生徒設問4と保護者設問4より、生徒個人のプライバシー保護に関する教員への信頼度については、一見して高い数字を示している。しかし、一部の生徒やその家庭からは、自分自身の情報や状況の秘密を守ってはくれないという印象をもたれていることも否めない。この数字が、生徒が教員へ色々相談しにくいと思っている一因とも考えられる。

II 重点目標

大半の生徒が良好な人間関係を築いているとはいえ、まだまだ人間関係において、トラブル要素、悩み、不安を抱えながら毎日過ごしていると見受けられる。生徒同士、生徒と教員間の関係を更に良好なものとするために、生徒の出すサインを見逃さず、タイムリーに声掛けをする必要がある。生徒が教員に相談しやすい雰囲気や環境を作るためにも、懇談のみならず平日頃より生徒の意見に耳を傾け、生徒と接する時間を確保し、一層の生徒理解に努める必要がある。また、生徒同士の人間関係構築のために、コミュニケーション力の向上や他者への思いやりを教化していく。さらに、コミュニケーションツール(SNS等)の正しい利用方法の教育を定期的かつ継続的に実施し、スムーズな人間関係構築を促していく。「生徒が教員に悩みを相談しづらい」という分析結果を受け止め、教員1人1人がカウンセリングマインドを自覚し、日ごろの指導に取り組む必要がある。

⑤学習状況

生徒	5	コースやエリア独自の授業や行事は、自分の興味・進路に役立つと思う。	A+B	88%
	6	各科目の先生の授業は、それぞれよく理解できる。	A+B	73%
	7	わかりにくいところを質問したときや、欠点をとってしまったときなど、先生は丁寧に教えてくれる。	A+B	84%
保護者	6	授業は積極的に取り組めて楽しいようである。	A+B	75%
	7	成績不振の生徒への学習指導がよく行われている。	A+B	78%
	8	コースやエリア独自に設定されている授業や行事は有意義である。	A+B	91%

評価結果と分析

I 分析

「コースやエリア独自に設定されている授業や行事」に対しての生徒、保護者からの理解、評価が昨年度に比べて、生徒で15ポイント、保護者で9ポイント増となった。コースやエリアへの満足度が増加しているのはとてもありがたいことであり、本校の取り組みを認めていただいたので、今後とも更に良いものになるよう努力が必要である。成績不良者に対する放課後勉強会を始め、各授業担当者が授業外で指導を行うなど、学習面でのサポートを実施しているが、特に生徒から高い評価が得られたのはとても良かった。「各科目の先生の授業は、それぞれよく理解できる。」という問いについては生徒の評価が昨年度から21ポイント上がった。大半の生徒が授業がよく分かれると答えてくれており、更によく分かる授業、楽しく積極的に参加できる授業にしていく必要性を痛感する。

II 重点目標

よく分かる授業、楽しく積極的に参加できる授業にするため、生徒の求めるところをしっかりと把握するようにしたい。タブレットやパソコン等のICT機器を利用した授業で生徒の興味、関心をかきたて積極的に授業に参加してもらえるよう工夫していきたい。そのためには前提となるコンピュータリテラシーの習得が必要不可欠である。ICT環境の整備を更に進めていきたい。また、アクティブラーニングにより、生徒間での話し合いを活発化し、生徒からの発言、発信が盛んになるよう工夫していきたい。

⑥不登校生対応

教職員	15	カウンセリング室生は、各種の学校行事・コース行事にどんな形であれ参加できるようになっている。	A+B	84%
	16	カウンセリング室生にとって、過ごしやすく、かつクラス復帰をうながす環境設定がととのっている。	A+B	73%
	17	カウンセリング室生の進路保障についても、十分に手を尽くしている。	A+B	80%
	18	カウンセリング室担当者として、担任・教科担当者との連絡は密に行われている。	A+B	81%

評価結果と分析

I 分析

昨年度に引き続き、カウンセリング室担当者の不断の努力により、カウンセリング室生が各種の学校行事・コース行事に参加できるようになってきている。メールによる連絡を始め、登校時の声掛けによりカウンセリング室生の参加に対する抵抗感を低減している。又、カウンセリング室生の進路保障については、進学を中心に生徒の希望にできるだけ沿う形になってきている。カウンセリング室担当者として担任・教科担当者との連絡についても、カウンセリング室担当者の積極的な働きかけにより密に行われている。各種の考査、提出物等のやり取りもスムーズに行えるようになってきている。ただ、学年、担任、教科担当者による不徹底が見られることがあるので是正していきたい。

II 重点目標

教室外登校もできない生徒、起立性調節障害で午後遅くからでないと登校できない生徒が増加してきている。そのため進級・卒業のための出席日数の確保が問題になっている。長期休業中に登校をさせたりするも、それだけでは不十分なケースが増えてきているため、対策が必要不可欠である。登校できない生徒に対して進級・卒業を保障していく制度の構築が急務である。

⑦進路指導

生徒	8	進路について、一人一人に適した丁寧な指導がされている。	A+B	63%
	9	進路について、説明会や見学・研修がよく設定されている。	A+B	71%
保護者	9	進路指導について、希望進路に関する最新の教育情報をよく伝えている。	A+B	71%
	10	進路指導について、ガイダンスや動機づけの機会がよく設定されている。	A+B	73%
	11	進路についての面談や相談が十分におこなわれている。	A+B	66%
教職員	10	生徒一人一人の希望・適性をすくい取るように、こまやかな進路調査をおこなっている。	A+B	89%
	11	生徒が必要としている進路情報について、積極的に複数回、提供している。	A+B	89%
	12	学年・コースで進路指導について、しっかりした年間計画が立てられている。	A+B	89%
	13	進学・就職に対して、生徒に各自の将来のビジョンが描けるようにガイダンスを工夫している。	A+B	86%
	14	進路について意欲に欠ける生徒に対して、根気強く働きかけている。	A+B	86%

評価結果と分析

I 分析

教職員が進路指導を行っているという認識と、保護者生徒が進路指導がなされているという認識にズレが生じ、教職員が実感しているよりも保護者生徒は進路指導がなされていると感じていないことがデータから分析される。進学や就職の相談会、各コースのガイダンス、大学専門学校を招いての進学説明会など、実施する事前と事後に指導を行い、何を目的とし、何を考えるべきなのかという共通認識を明確にしなくては、このズレは解消されることなく、十分な進路指導がなされているとは言い難い。

また、教職員が「十分に行っている」と捉えているガイダンスや進路説明会も、保護者生徒にとっては「十分ではない」と感じているのであれば、ガイダンスや進路相談会を実施する機会を多くしてもよいのではないかと。並びにこの結果は、大学入試改革を控えた学年が、進路に対しての意識を高く持っていると考えられることでもある。

II 重点目標

現第1学年からは大学入試改革により、センター試験の変更やA0・指定校推薦入試に学力試験を課すなど、大きな変化が見られる。また、大学の入学定員厳格化により、今後さらに大学入試の難易度は上がることが予測される。そういった社会の流れの中で、本校の生徒が目標とすべき進路はどのようなものであるかを高校1年次から考える機会を持ち、学力面だけでなく、ボランティア活動や探究活動など、高校3年間での主体的な活動を模索していきたい。

キャリア教育を推進する本校においては、生涯1キャリアではなく、複数のキャリアを経る人生100年時代を見通し、生徒のキャリア形成に重きを置いた指導を行うことが急務であると考えられる。

⑧生活指導

生徒	10	先生は授業中の私語や居眠りを厳しく注意している	A+B	57% (昨年度55.0%)
	11	生徒指導の方針についてはよく理解できる	A+B	73% (昨年度51.0%)
保護者	13	宣真高校の遅刻・携帯電話・頭髪などの生活指導面の方針に共感できる	A+B	77% (昨年度76.0%)
教職員	19	すべての教育活動を通じて、社会規範や公共心・道徳心を大切にしている意識が育まれている	A+B	88% (昨年度93.0%)
	20	情報モラル教育について、よく生徒に正しく適切な指導が行われている	A+B	88% (昨年度86.0%)
	21	いじめの早期発見について、生徒の変化や動向を特に意識している	A+B	88% (昨年度86.0%)
	23	薬物乱用、交通安全について健康と安全の観点から強く指導している	A+B	88% (昨年度79.0%)

評価結果と分析

I 分析

保護者に問うた「宣真高校の生活指導面の方針に共感できるか否か」については昨年度とほぼ同じ77%が共感できるとの回答が得られた。これに関しては、学校の方針を保護者に理解して頂いていると見て取れる。さらに、生徒に問うた「生徒指導の方針についてはよく理解できる」については、昨年度に比べて大幅なポイントアップが見られた。他校に比べ、スマホ・携帯電話の扱いや服装など厳しい校則である中、このような数値が出たのは、違反した生徒への注意や指導をする際の先生方の姿勢が反映されているのではないだろうか。一辺倒の指導ではなく、その時の状況や背景などを考慮し、個々に応じた伝え方や指導方法といった柔軟な対応の結果であると感じる。現場での先生方の丁寧な受け答えが行われていることの証であろう。しかし、「先生は授業中の私語や居眠りを厳しく注意している。」について、およそ半数の生徒がそのように感じていないことがわかる。勉学に対する不満は、学校への不満に直結するものであるため、早急に改善をはかりたい。生徒指導の立場から、生徒へ授業態度のあり方を伝えるだけでなく、教務部とも連携をし、教科担当への聴き取りなどを行うことも必要か。

教職員に問うた設問における評価はすべて高い数値となっている。その中で唯一、昨年度よりポイント数の下がったのは「すべての教育活動を通じて、社会規範や公共心・道徳心を大切にしている意識が育まれている」である。昨年度は93%という最も高い数値が示されていた。その他の設問については昨年度より多少のポイントアップが見られた。

II 重点目標

生徒の抱える問題が多様化する中、それに対応するための知識と方法を教員も身につけていかねばならない。それには、人権推進委員会及び保健部との連携を図り、生徒の個性・質を知るための教員研修の実施が必須となる。さらに、問題行動を起こした生徒や保護者に事実確認をする際の対話力も重要となる。そういった会話スキル研修も実施したい。

また、今日、生徒指導に関する問題行動が表面に出てくるのではなく、SNS上での見えない隠れたところでの問題が頻発している。なかなか表面化されない問題に対し、「いじめ」「情報モラル」に対する教員の確固たる姿勢を見せることが大切である。全校生徒に向けた講習会だけではなく、学校生活の中で、学年・クラスにおいて、何重にもわたる問題提起及び「いじめ」「情報モラル」教育を実施したい。

⑨心と人権

生徒	13 人権の大切さを学んだり、考えたりする機会がある。	A+B	83%
		D	2%
	14 先生たちは、生徒の人権を十分尊重している。	A+B	80%
		D	5%
保護者	14 宣真高校は、生徒の人権やいのちを大切にする心や、社会ルールを守る態度を育てようとしている。	A+B	88%
		D	2%
教職員	22 人権尊重についての課題や指導方法についてよく話し合われている。	A+B	73%
		D	4%

評価結果と分析

I 分析

本校では、各学年の人権担当教員が、年度当初に計画した重点目標に従い、生徒が理解しやすいように、生徒たちにとって身近な事柄を中心に、人権ホームルームを実施している。【生徒 設問13】【生徒 設問14】では前年度に比べて20ポイント近くの上昇が見られる。また、【保護者 設問14】でも88%の非常に高い評価をいただいております。【教職員 設問22】でも73%の評価がある。上昇の背景には、人権HRの内容が従来に比べて生徒の目線に近いものになったことと、「命」をテーマにした全体のHRを開いたことが大きい。

II 重点目標

生徒の人権意識を高めるために、各学期の人権ホームルームの内容を充実させていくと共にその機会を増やしていく。生徒の実態に即した関連性のある理解しやすい内容のホームルーム計画を立てて実施する。そして、人とのつながりの大切さ、相互の違いを認め合いながら尊重する意識を高めていきたい。同時に、教職員は内外の研修会に参加し、自らの人権意識を高めることによって、より有意義な人権教育が行われるように志向する。また、平成28年にいわゆる「人権三法」が施行された事実も踏まえて、HR内容の充実も喫緊の課題である。

⑩特別活動

生徒	15	クラブ活動は活発である。	A+B	92%
保護者	15	文化祭・体育祭などの学校行事に、子どもは積極的に参加している。	A+B	89%
評価結果と分析				
I 分析				
クラブ活動の活発さについては前年度と同じく、92%という非常に高い評価をいただいている。また、学校行事に関する積極性についても前年度と同じく、90%に近い高い評価をいただいている。この背景には入試広報部が頻繁にホームページ等を更新し、部活動や学校行事についての情報がより身近になったことが大きい。生徒や保護者が生徒たちは学校行事や部活動に対し、概ね積極的に参加していることがうかがえる。				
II 重点目標				
部活動をよりアピールするために、外部の大会に積極的に参加していくように志向する。また、今後もホームページ等の媒体を有効に活用することで、クラブ活動で努力している生徒を顕彰していきたい。学校行事に関しては、創立100周年に向けて校内の環境が大きく変化していくことも踏まえて、現在の行事の充実度を増していくという方向性で進めていきたい。				

⑩学校設備

生徒	12	学校の設備・備品は十分満足できるものである。	A+B	80%
保護者	12	学校の設備・備品は十分満足できるものである。	A+B	86%
評価結果と分析				
I 分析				
学校設備についての設問の肯定的評価は、以前は60%台で、前回は70%台であったが、初の80%台に乗った。紫峯館完成にともなうランチルームその他の特別教室の一新と設備がその要因であろう。				
II 重点目標				
現在も工事が進行中だが、本館の耐震補強工事とそれに付随する改築により、従来より懸案であった箇所に着手する予定である。快適に高校生活を送れるように、優先順位を決めて逐次改善していく。				

自由記述

新しい校舎ができたり、色々な変化を遂げられていると思います。この機会に制服も人気あるラインで取り入れてみるともっと注目されると思います。

担任の先生のみならず、たくさんの先生方にお世話になりました。感謝しております。

三年間、とても楽しく有意義な高校生活を過ごすことができました。

娘が学校が楽しいと思っていることが、親としては一番嬉しく安心でした。大変お世話になりました。

授業が先生の雑談で終わるというのを毎日聞いていました。

献血を学校行事でするのはとても良いことだと思っています。

ベテランの先生と比べると、若い先生方の存在感が薄いように感じました。仕事量の多さや精神的な余裕がなくて、保護者からの視点では、そう思えただけかもしれません。

授業中にさわぐ生徒、1人で意見を言いつづけ、授業が進まない、先生の声が聞こえないと話を娘から聞きます。

クラブの大会等で公欠になった日の授業のノートや内容等を理解出来る機会を与えていただきたいと思っています。

修学旅行が本年度から東北・ディズニーランドに変更されましたが、とても有意義で修学旅行らしい修学旅行だと思いました。

学校でいじめの調査アンケートといったものを多くとおいた方が良いと思います。

クラブ活動も毎日のようにするのではなく月に1回ほどノークラブデーを作ったら良いと思います。

部活によっては終わるじかんがとてもおそすぎる！！心配。

校舎だけでなく運動部の部室も新しくして欲しい。あまりにも汚くて衛生的にもどうかと思う。

アニメアートの学習内容にかたまりがあるように思える。正統美術からデジタル、本を創るなど「アニメ」・「アート」とつけた意味はあるのか？中途半端なら美術コースでよいのでは？

いつもありがとうございます。感謝しております。

部活動で帰りが遅い時は、下校時から携帯電話を使用できるようにして欲しい。(防犯のため)携帯電話、登下校時は利用できるようにしてほしい！

もう少し偏差値を上げて欲しいです。

携帯について、登下校はしようさせてほしい。何かあってから電源入れても間に合わない！

先生方が子供の目線に合わせて対応してくれていて感謝しています。

体育祭の保護者席の数が足りないと思いました。

娘自身真面目に無遅刻、無欠席で学校に行けているわけではなく…そこが残念に思いますが、学校側はそんな娘にとっても寛容に対応して下さっていると思います。日々感謝しております。実際、親である私もまだ将来の進路について、深く話合えておらず、学校側の進路指導の様子など見えてはいません。3年しかないと理解しながら、あっという間に一年が経ちました。今後、しっかり家庭でも話し合いたいです。何より毎日、楽しく学校に行けている事をとても嬉しく思っております。ありがとうございます。

今年度は通学中に地震がありました。その時の学校側の対応はとてもスピーディで安心できました。また、一年生から進路についての情報が沢山あり、ゆっくりと将来を考えることができるのは子どもにとって良いことだと思います。生活指導面は現状のままをお願いしたいです。来年度もよろしく願います。

1年生なので、進路指導はまだの様子ですが、次年度は親身に指導していただける様期待しています。学校、クラブ活動、親から見てたいへんそうですが、毎日楽しいようで充実した日々を過ごせている様です。

とんでもなく手のかかる娘に対して根気強く向き合って頂き、感謝しています。

